

ブランディング事業から科学研究費助成への展開

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三浦, 真希子 メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1062

1-R-1

ブランディング事業から科学研究費助成への展開

三浦真希子¹⁾

文部科学省平成 29 年度「私立大学研究ブランディング事業」に採択された”地域子育てプラットフォームの構築を通じた All-Win プラン”の一環として、現在『保育施設における感染拡大防止を目的としたオムツ処理方法に関する研究』を行っている。今年度、本研究を基盤とした研究課題『保育施設におけるオムツ処理規定モデルの構築』が科学研究費助成事業（若手研究）に採択された。

使用済みオムツは、医療機関では廃棄物処理法に基づき感染性廃棄物、または事業系一般廃棄物として処理されている一方、保育施設においては国や自治体で明確な規定はない。家庭へ持ち帰る決まりとなっている場合、保育士はオムツ交換後、使用済みオムツを個人の棚に分別する必要がある。利用者も、家庭に持ち帰ったオムツを処分する作業が増えるため、精神面、効率面で負担になっていることが予測される。また、多くのヒトの手を介すことから、病原微生物の感染が拡大する原因の 1 つとなり得る。これらのことから、施設内での処理を原則としたオムツ処理規定モデルを構築し、それが保育施設で日常的に実施されることにより、病原微生物による感染拡大の防止や保育者の負担軽減に大いに貢献し得ると考え研究費助成の申請に至った。

今回、本研究がブランディング事業を基盤として科学研究費助成へ展開できたことから、研究内容とその経緯について発表を行う。

1) 保健科学部医療検査学科